

授 業 概 要

平成28年度

群馬医療福祉大学 大学院
社会福祉学研究科

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

目 次

福祉倫理特論	1
社会福祉原理特論	2
社会福祉理論・学説史研究	3
社会福祉経営特論	4
社会福祉法制特論	5
高齢者福祉特論	6
障害者福祉特論	7
児童福祉特論	8
精神保健特論	9
比較（国際）福祉特論	10
福祉心理特論	11
福祉サービス市場特論	12
社会調査特論	13
社会福祉経営研究・演習	14
福祉事業経営特論	15
人事労務管理特論	16
福祉事業経営研究・演習	17
地域福祉経営特論	18
社会福祉行財政特論	19
地域福祉計画特論	20
地域福祉経営研究・演習	21
ソーシャルワーク特論Ⅰ	22
ソーシャルワーク特論Ⅱ	23
ケアマネジメント特論	24
ソーシャルワーク研究・演習	25
修士論文研究指導の概要	26～27

教育課程等の概要（平成28年度）

社会福祉学研究科 社会福祉経営専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年		2年		担当教員
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
共通基礎分野	福祉倫理特論	2		●				鈴木 笹澤 笹澤 中熊 円井 黒澤 木下 江島 相川 川村 大野 八木 白石 中熊
	社会福祉原理特論	2		●				
	社会福祉理論・学説史研究	2			●			
	社会福祉経営特論	2		●				
	社会福祉法制特論		2		○			
	高齢者福祉特論（隔年）		2		○		○	
	障害者福祉特論（隔年・H29年度開講）		2		○			
	児童福祉特論		2		○		○	
	精神保健特論（隔年）		2	○		○		
	比較（国際）福祉特論（隔年・H29年度開講）		2	○		○		
	福祉心理特論		2	○		○		
	福祉サービス市場特論		2	○		○		
	社会調査特論	2		●				
	社会福祉経営研究・演習	2		▲	▲	▲	▲	
小計（14科目）		12	16					
福祉事業分野	福祉事業経営特論		2		○			川島 科目担当教員 森田 川島
	福祉施設経営特論（隔年・H29年度開講）		2		○			
	人事労務管理特論		2	○		○		
	福祉事業経営研究・演習（隔年）		2	△	△	△	△	
小計（4科目）			8					
地域福祉分野	地域福祉経営特論		2	○				笹澤 高井 川村 笹澤
	社会福祉行財政特論		2		○			
	地域福祉計画特論（隔年）		2	○		○		
	地域福祉経営研究・演習		2	△	△	△	△	
小計（4科目）			8					
福祉専門分野技術	ソーシャルワーク特論Ⅰ	2		●				新木 真下 黒澤 中越
	ソーシャルワーク特論Ⅱ	2			●			
	ケアマネジメント特論		2		○			
	ソーシャルワーク研究・演習		2	△	△	△	△	
小計（4科目）		4	4					
論文	修士論文研究指導	6		●	●	●	●	鈴木 笹澤 大野 江島 白石
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	
小計（1科目）		6						
合計（26科目）		22	36					
学位又は称号	修士（社会福祉学）							

※●は必修、▲は必修演習、△は選択演習

授業科目

■ 福祉倫理特論

担当教員	鈴木 利定
開講期	1年次
単位	2
学修目標	倫理は人の生活に深くかかわる。昔の先賢は誠をして天の条理に位置づけ、人の目標とさせている。宋・明の学者は哲学の領域・理気説に昇化せしめている。要するに社会に生きるには技術、知識、人格を支えるに誠（良知）が根元であることを知らしめているのである。本講義はそのことに気づかせ、仕事を通して吾が身体の力行を重んずる人を育てることを主眼とする。
講義の内容 (基本的枠組)	対象者への人間尊重、人間尊厳は社会福祉に携わる人の目標である。それには我が身心を律することが先務である。而して余姚学は心の本体・身体の力行を説いて、簡にして細微である。戦後60年の今日、善悪の行為を判断もつけられない人が溢れかかっているようである。憂慮に堪えない。社会福祉及び看護にかかわる人はそのようなことであってはならない。私は多年の研究論文、著書、講演等の要旨をもとに身心の錬成、人格涵養の大切なことを受講生に講じてゆくものである。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション : 講義内容の説明</p> <p>【第2回】 当校、伝統の建学精神 : 当校の礎と学統</p> <p>【第3回】 〃 : 提言字の解義</p> <p>【第4回】 〃 : 現代的意義</p> <p>【第5回】 当校の教育理念 : 理気説の提言 (1)</p> <p>【第6回】 〃 : 理気一元説の導入 (2)</p> <p>【第7回】 〃 : 提言字の本義</p> <p>【第8回】 〃 : 現代的意義</p> <p>【第9回】 儒教倫理 : 特色</p> <p>【第10回】 儒教倫理 (1) : 特性 (1)</p> <p>【第11回】 儒教倫理 (2) : 特性 (2)</p> <p>【第12回】 家庭生活と倫理の発現 : 倫理思想の体認</p> <p>【第13回】 家庭生活と倫理の発現 : 〃</p> <p>【第14回】 社会生活と倫理の発現 : 同上及び建学精神、教育理念の体認</p> <p>【第15回】 職業と人生 (就業規則と職業倫理を含む) : 当校、諸学部諸学科の顕彰</p>
受講生への要望	仕事を含んで日常の生活に深くかかわるものが倫理である。時代への新しき創造、真知について深く学び、体認して頂くことを受講生の皆様へ要望するものであります。
評価の方法	授業時の出席点 (出欠席回数による) は最高で10点、平常点は最高で5点、期末筆答試験は最高で85点、総合点100点満点となります。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 咸有一徳・・・昌賢学園の全人教育 鈴木利定・中田勝 著</p> <p>【参考書】 随時指示</p>

授業科目

■ 社会福祉原理特論

担当教員	笹澤 武
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	社会福祉学の基底としての人間形成、完成の条件を学び、社会福祉の理念を理解したい。 同時に自らの研究計画とも関連させつつ学修して行く。
講義の内容 (基本的枠組)	社会福祉の用語についての変遷は、その本質的な意味との関係があること、つまり、社会、経済との関連がある点であることを知り、幅広く国民生活に関わる形で理解を進めて行く。
授業計画	<p>【第1回】 授業計画、参考文献、資料収集</p> <p>【第2回】 社会福祉の用語変遷（福祉概念の発展）</p> <p>【第3回】 社会福祉の基本前提（生物、文化社会的面）</p> <p>【第4回】（人間存在としての生など）</p> <p>【第5回】（現代社会福祉理念の諸問題）</p> <p>【第6回】（個の確立）</p> <p>【第7回】（国家福祉の理念）</p> <p>【第8回】（人間的理念：人権、個人の尊厳、生命の尊厳）</p> <p>【第9回】（人間的理念：平等の理念、自由の理念、自立の理念）</p> <p>【第10回】（愛他理念：理念と展開）</p> <p>【第11回】 社会保障、社会福祉の理念をさぐる</p> <p>【第12回】 20、21世紀の福祉理念</p> <p>【第13回】 わが国の憲法の示す福祉理念</p> <p>【第14回】 行政の示す社会福祉</p> <p>【第15回】 講義のふりかえり</p> <p>* シラバスのテーマや順序を変更することもある</p>
受講生への要望	
評価の方法	発表（30%）・レポート提出（70%）等を総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>【参考文献】</p> <p>「社会福祉の発見」 あいり出版</p> <p>「生命倫理」 弘文堂</p> <p>その他</p>

授業科目

■ 社会福祉理論・学説史研究

担当教員	笹澤 武
開講期	1年次
単位	2
学修目標	わが国の社会福祉の理論と人間らしく生きることと対比して考究したい。
講義の内容 (基本的枠組)	<p>絆の言葉が使われている昨今を別の角度から肯定的、批判的に考えてゆくため、若干の学説も取り上げる。</p> <p>その考え方の背景に人間らしく生きるための思想（考え方）や実践を取り上げてみる。</p>
授業計画	<p>【第1回】 授業のためのオリエンテーション</p> <p>【第2回】 現実から（考究の）出発</p> <p>【第3回】 〃</p> <p>【第4回】 〃</p> <p>【第5回】 〃</p> <p>【第6回】 福祉学への接近</p> <p>【第7回】 〃</p> <p>【第8回】 人生（生涯生活）と福祉</p> <p>【第9回】 〃</p> <p>【第10回】 福祉の援助と人間福祉の目標</p> <p>【第11回】 〃</p> <p>【第12回】 公共にとって社会福祉学とは</p> <p>【第13回】 〃</p> <p>【第14回】 〃</p> <p>【第15回】 授業の振り返り</p> <p>* シラバスのテーマや順序を変更することもある</p>
受講生への要望	文献を読み意見を述べ合って、学問を自らのものにして欲しい。
評価の方法	発表（30%）・レポート提出（70%）で総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>【参考書】</p> <p>国代国次郎「社会福祉学とは何か」 本の泉社</p> <p>杉本一義「人生福祉」 駿河台出版社</p>

授業科目

■ 社会福祉経営特論

担当教員	中熊 靖
開講期	1 年次
単位	2 (必修)
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉マネジメントの実践において応用できるさまざまな手法を具体的に学ぶ。 ・ 顧客満足の基本となるサービスの質の向上とサービスの品質管理について学ぶ。 ・ スタッフが能力を発揮して意欲的に働くために、採用から研修、労務管理のあり方を学ぶ。 ・ 健全経営を確保するために、経営管理者の立場で実践すべきことを理解する。
講義の内容 (基本的枠組)	<p>本講座は、社会福祉事業の経営環境の変化とその中で存続発展するための経営のあり方を学習する。</p> <p>福祉事業の中で経営管理者として活躍するために、理解し、身につけておくべきことを具体例を通じて学んでいく。</p>
授業計画	<p>【第1回】 福祉事業の経営環境とマネジメント</p> <p>【第2回】 経営管理者の役割</p> <p>【第3回】 経営理念と経営戦略</p> <p>【第4回】 顧客の満足① 顧客の理解、顧客のニーズの把握とその充足</p> <p>【第5回】 顧客の満足② サービスの質の管理、情報開示、権利の擁護</p> <p>【第6回】 顧客の満足③ 福祉事業におけるマーケティング</p> <p>【第7回】 スタッフの満足① 人材の確保、処遇システム、目標管理</p> <p>【第8回】 スタッフの満足② 人事考課、研修システム</p> <p>【第9回】 業務の管理① 組織、業務の標準化</p> <p>【第10回】 業務の管理② 業務の効率化、コミュニケーション</p> <p>【第11回】 健全経営の確保① 法令・倫理の遵守、財務体質の強化</p> <p>【第12回】 健全経営の確保② 収入の確保と損益管理</p> <p>【第13回】 健全経営の確保③ 事業収支シミュレーション</p> <p>【第14回】 マネジメント・スキル① 人事労務管理</p> <p>【第15回】 マネジメント・スキル② 財務会計管理</p>
受講生への要望	<p>マネジメントの基礎理論を理解するとともに、その福祉事業への適用を学習する。紹介する参考図書を事前に学習することを期待する。</p>
評価の方法	<p>出席状況 30%、学習態度 20%、試験等 50%。</p>
テキスト・参考書	<p>基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。</p>

授業科目

■ 社会福祉法制特論

担当教員	円井 義弘
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	福祉サービス、社会保障の基礎となる法制度の理解と、利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段を実践的に研修する。
講義の内容 (基本的枠組)	1) 社会福祉に関する法制度につき説明できる。 2) 利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段をについて説明できる。
授業計画	<p>【第1回】 権利擁護概説(権利・社会正義・倫理を含む)(講義) 福祉サービス、社会保障の前提として、社会規範における法の位置づけを、社会正義・倫理も含めて概説する。</p> <p>【第2回】 憲法と人権保障(講義) 最高法規である憲法につき概説する。社会福祉の根源である生存権を中心に、自由権と比較しつつ説明を加える。</p> <p>【第3回】 意思能力・行為能力・意思表示(講義) 民法総則のうち、契約と特に関連する意思能力・行為能力・意思表示等を概説する。</p> <p>【第4回】 契約(消費者保護制度を含む)(講義) 「措置から契約へ」という流れから、理解が不可欠となっている契約法につき概説する。契約締結に関連する消費者保護制度も説明する。</p> <p>【第5回】 成年後見制度(講義) 権利擁護のための中心となる制度である成年後見制度の内容・手続等について、概説する。</p> <p>【第6回】 婚姻(DV防止法を含む)(講義) 権利擁護・社会福祉の前提として理解しておくべき身分法のうち、ベースとなる婚姻につき概説する。あわせて、婚姻に伴いやすいDV対策についても言及する。</p> <p>【第7回】 親子・親権(児童虐待防止法を含む)(講義) 身分法のうち親と子の関係につき概説する。近年特に問題となっている児童虐待防止についても解説を加える。</p> <p>【第8回】 扶養(高齢者虐待防止法を含む)(講義) 成年後見制度の理解にもつながる扶養について概説する。介護において生じうる高齢者虐待の防止にも言及する。</p> <p>【第9回】 行政活動(講義) 福祉の実現のためには、行政の関与が不可欠であり、行政法の理解は欠かせない。そこで、行政法の基本である行政活動について概説する。</p> <p>【第10回】 行政救済(講義) さらに、行政法のうち行政不服審査・行政訴訟等の行政からの救済手段について概説する。</p> <p>【第11回】 社会福祉法制概説(講義) 12回以降の前提として、社会福祉法・生活保護法など社会福祉に関する法律につき、重要な点を解説する。</p> <p>【第12回】 社会福祉法制に関する判例研究Ⅰ(演習) 社会福祉に関する法律についての判例を題材に受講生にレジメを作成させ、発表・検討を行う。</p> <p>【第13回】 社会福祉法制に関する判例研究Ⅱ(演習) 社会福祉に関する法律についての判例を題材に受講生にレジメを作成させ、発表・検討を行う。</p> <p>【第14回】 成年後見制度に関する判例研究Ⅰ(演習) 社会福祉に関する法律についての判例を題材に受講生にレジメを作成させ、発表・検討を行う。</p> <p>【第15回】 成年後見制度に関する判例研究Ⅱ(演習) 社会福祉に関する法律についての判例を題材に受講生にレジメを作成させ、発表・検討を行う。</p>
受講生への要望	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。授業には演習も含まれるので、討議にも積極的に参加すること。
評価の方法	①レポート・試験60% ②発表40%
テキスト・参考書	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館、2011年 ・宇山勝儀・船水浩行 編著「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房、2010年 ・「社会福祉六法」(最新のもの)新日本法規 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時にその都度説明する。

授業科目

■ 高齢者福祉特論

担当教員	黒澤 貞夫
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	高齢者福祉の基盤となる人権思想、法制度、施策等を学び、高齢者の生活の安定、安心、生きがい等を支援するための理論と実践の能力を事例等を通して研究し、身につける。
講義の内容 (基本的枠組)	高齢者福祉について、人権思想の源流をたどり、現代社会の法体系、制度、施策等を学ぶ。そして、それらの基本的理念と生活の現実の関係を学ぶ。ついで、事例等によって、理念、法等が現実の生活にどう活かされているか、又はその課題について実証的に研究する。 高齢者福祉における生活支援を人間科学として、その専門性を根拠づけることを研究する。
授業計画	<p>【第1回】 高齢者福祉における生活の支援について</p> <p>【第2回】 生活支援を人権思想からみる</p> <p>【第3回】 わが国の高齢者福祉の制度と変遷について</p> <p>【第4回】 人間の尊厳と自立について</p> <p>【第5回】 人間関係の形成について</p> <p>【第6回】 生活支援におけるソーシャルワーク</p> <p>【第7回】 生活支援におけるケアワーク</p> <p>【第8回】 保健・医療・福祉の連携、協働の意義と課題</p> <p>【第9回】 地域の福祉文化の形成について（特に自助、共助、公助）</p> <p>【第10回】 その人らしい生活をどう支援するかについて</p> <p>【第11回】 生活支援の専門性について</p> <p>【第12回】 専門性を人間科学として根拠づけることについて</p> <p>【第13回】 人間の尊厳と自立に関わる権利擁護について</p> <p>【第14回】 高齢者福祉に従事する人びとの専門性の向上について</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、まとめていく心構えが重要です。授業の教材、文献をよく読んでおくことが有益です。
評価の方法	<p>①期末評価（レポート）</p> <p>②授業中の課題に対する取り組みの評価</p>
テキスト・参考書	<p>①予め用意したテキスト（プリントを含む）を使用する。</p> <p>②参考文献は授業の際、提示する。（必要に応じ）</p>

授業科目

障害者福祉特論

担当教員	木下 大生
開講期	1年次
単位	2
学修目標	障害のある人たちの「人生とは？」を念頭に置きつつ、主として知的障害者施設入所者の地域移行推進の視点から、これまでの障害者政策を顧み、これからの障害者政策を考える。
講義の内容 (基本的枠組)	今や障害者政策の大きな課題とされる施設入所者の地域移行の推進の視点から、これまでの障害者政策を顧みる。関係法令の変遷、政策転換の契機となった審議会答申等の資料を手掛かりとしつつ、いわゆる「コロニー」と称される大規模収容保護施設実現に至る道のり、地域移行への方向転換、障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行推進という流れを確認し、地域移行の必然性を検証する。さらに、障害者自立支援法に代わる新たな総合法制度の検討状況を踏まえながら、今後の地域移行の展開を予測する。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 障害者福祉政策の系譜</p> <p>【第3回】 ノーマライゼーション理念</p> <p>【第4回～第6回】 我が国におけるコロニー実現に至る道のり</p> <p>【第7回】 施設の整備推進と在宅福祉施策の萌芽</p> <p>【第8回・第9回】 地域移行の基盤整備の緩やかな進展</p> <p>【第10回・第11回】 地域移行の実践例を学ぶ</p> <p>【第12回】 施設解体宣言を考える</p> <p>【第13回・第14回】 障害者自立支援法による地域移行の推進</p> <p>【第15回】 検討中の新たな総合法制度と地域移行</p>
受講生への要望	法令、行政資料、審議会答申、関係論文等を引用した講義資料を予め配布しますので、これらをよく読みこなし、自らの考えを積極的に発言していただくことを期待します。
評価の方法	基準：出席点30点、受講態度10点、レポート60点。
テキスト・参考書	<p>【参考書】</p> <p>「障害者福祉の世界」佐藤久夫・小澤温（有斐閣アルマ）</p> <p>「現代の障害者福祉（改訂版）」定藤丈弘・佐藤久夫・北野誠一編（有斐閣）</p> <p>「再考・ノーマライゼーションの原理」ベンクト・ニリエ（現代書館）</p> <p>「社会福祉政策」坂田周一（有斐閣アルマ）</p> <p>※その他随時紹介します。</p>

授業科目

■ 児童福祉特論

担当教員	江島 正子
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	児童福祉の理念はこどもの権利を保障することである。わが国において児童福祉の基本理念は日本国憲法に立脚する。児童福祉法は成立から60年余が経過した。こどもの権利を保障する考え方は戦前と戦後では大きな相違がある。人権に対する基本的概念、こどもの養育に関する考え方には、180度の転換が見られる。欧米の先進諸国の児童福祉についての歴史や理念を参照にしながら、わが国におけるよりよい児童福祉のあり方を研究する。
講義の内容 (基本的枠組)	小さく幼いこどもを中心に児童福祉の理論と実践についての歴史を振り返り、世界各国とわが国を比較し、日本の児童福祉の特徴を追及する。現在のわが国における児童福祉の長所は何か。短所は何か。海外において模範にできる事例は何かについて考察する。
授業計画	<p>【第1回】 自己紹介 児童福祉を要とした乳幼児の人間形成に関するアンケート</p> <p>【第2回】 アンケートの結果とわが国における幼いこどもの保育の歩み</p> <p>【第3回】 乳幼児の人間形成における世界の歩み</p> <p>【第4回】 近代史にみる保育思想史</p> <p>【第5回】 ロバート・オーエン フリードリッヒ・フレーベル エレン・ケイ</p> <p>【第6回】 マリア・モンテッソーリ Casa dei bambini</p> <p>【第7回】 デイバイト</p> <p>【第8回】 児童福祉とは何か 児童福祉の理念と歴史 児童福祉の定義 保育と児童福祉</p> <p>【第9回】 児童福祉の分野 児童福祉の理念 日本国憲法</p> <p>【第10回】 児童福祉法 児童福祉の理念 児童福祉の法的根拠づけ 保育の理念</p> <p>【第11回】 わが国の児童福祉の歴史 明治期の児童福祉 大正期の児童福祉 昭和期の児童福祉</p> <p>【第12回】 平成期の児童福祉 今日児童福祉に登場した諸問題</p> <p>【第13回】 家庭環境をめぐる環境の変化 児童の権利擁護</p> <p>【第14回】 こどもに内在する「いのち」を尊重する児童福祉</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	<p>欠席・遅刻は授業時間前に届け出ること。デイバイトや・ミニレポート・発表などを通して自分の研究テーマを自主的に調べる。</p> <p>講義内容とみずから選んだ課題について常に意識し、与えられた期限内に問題解決を努める。</p>
評価の方法	定期試験 授業の出席率 出席の態度 デイバイトの参加 ミニレポートの提出 自分の意見の発表などで総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>才村 純 編著 『保育者のための児童福祉論』 樹村房</p> <p>江島正子著 『たのしく育て子どもたち』 サンパウロ社</p> <p>マリア・モンテッソーリ著 『モンテッソーリの実践理論ーカルフォルニア・レクチャ』 サンパウロ社</p>

授業科目

■ 精神保健特論

担当教員	相川 章子
開講期	前期
単位	2
学修目標	精神保健福祉に関する基礎的総論的内容の把握は前提として、精神障害者のみならず、ソーシャルワーク全体への般化および応用について考察し、深めることを目標とする。また、より実践的なソーシャルワークについて検討する。
講義の内容 (基本的枠組)	精神保健および精神障害者を取りまく状況について歴史的・全体的にとらえ、日本および欧米諸国における動向をふまえつつ、その延長線上にある現在の精神保健福祉におけるソーシャルワークの実践およびその課題について学び、検討する。
授業計画	<p>【第1回】 精神保健福祉の歴史的背景</p> <p>【第2回】 精神障害者福祉における生活支援の現状と課題</p> <p>【第3回】 精神保健福祉におけるソーシャルワーク</p> <p>【第4回】 欧米諸国における精神保健福祉</p> <p>【第5回】 精神障害者福祉から精神保健福祉へ</p> <p>【第6回】 精神障害者福祉から精神保健への拡大</p> <p>【第7回】 精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 ① ストレングスとエンパワメント</p> <p>【第8回】 精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 ② セルフヘルプとピアサポート</p> <p>【第9回】 精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 ③ リカバリー</p> <p>【第10回】 ソーシャルワークにおける当事者主体</p> <p>【第11回】 プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 ① アメリカのプロシューマーの動向と課題</p> <p>【第12回】 プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 ② 日本のプロシューマーの動向と課題</p> <p>【第13回】 専門職と当事者の協働① 支援するもの-されるもの (二元論的支援関係)からの脱却</p> <p>【第14回】 専門職と当事者の協働② 循環的支援関係の模索</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	自らのこれまでの経験を生かして、ディスカッションに積極的に参加することを望みます。
評価の方法	(1) 平常点 30% (2) 参加状況およびディスカッション 30% (3) レポート 40%
テキスト・参考書	<p>【参考書】</p> <p>野中猛「心の病-回復への道」岩波新書 2012</p> <p>柏木昭・佐々木敏明「ソーシャルワーク協働の思想-“クリネー”から“トポス”へ」へるす出版 2010</p> <p>相川章子「精神障がいピアサポーター」中央法規 2013</p>

授業科目

■ 比較（国際）福祉特論

担当教員	川村 匡由
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	各国の社会保障を比較し、わが国の課題を提起する。
講義の内容 (基本的枠組)	国連など国際機関の役割や先進国、新興国、途上国の社会保障・社会福祉の比較研究を行う。
授業計画	<p>【第1回】 本科目の履修の動機と自己紹介 【第2回】 国家社会保障・社会福祉から国際社会保障・社会福祉へ 【第3回】 国連など国際機関の役割 【第4回】 NGOなど国際民間機関の役割 【第5回】 先進国・新興国・途上国の現状 【第6回】 グローバリゼーションとナショナリズム 【第7回】 これからの国際関係と日本 【第8回】 社会保障・社会福祉の国際比較① 【第9回】 社会保障・社会福祉の国際比較② 【第10回】 社会保障・社会福祉の国際比較③ 【第11回】 社会保障・社会福祉の国際比較④ 【第12回】 社会保障・社会福祉の国際比較⑤ 【第13回】 フリーターキング① 【第14回】 フリーターキング② 【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	国際関係に常に興味を持って臨んでほしい。
評価の方法	基準：プレゼン30点、出席状況20点、レポート50点。
テキスト・参考書	川村匡由編著・国際社会福祉論・ミネルヴァ書房 川村匡由編著・スイスになぜ「限界集落」がないのか・農文協

授業科目

福祉心理特論

担当教員	大野 俊和
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	福祉心理学の概要を学ぶとともに、当該領域の研究論文を読み、重要情報の読み取り方、レジュメの作成方法を学ぶ。
講義の内容 (基本的枠組)	福祉心理学はきわめて新しい学問である。そのため、この学問は統一したメタ理論や問題意識をもっておらず、社会福祉に関連するテーマをもつ臨床心理学、社会心理学、認知心理学、発達心理学の知見を寄せ集めた段階である。そのため、本講義では、発達心理学、認知心理学、社会心理学での関連基本概念を紹介した後に、社会福祉と結びついた個々の研究例を紹介していく予定である。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第3回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第4回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第5回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第6回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第7回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第8回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第9回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第10回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第11回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第12回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第13回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第14回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	レジュメを事前に参加人数分用意しておくこと。
評価の方法	授業内コメント30点、授業内レジュメ50点、レポート20点。
テキスト・参考書	授業内で適宜指示する。

授業科目

福祉サービス市場特論

担当教員	八木 大輔
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	<p>2000年の介護保険施行以来、福祉サービス市場における高齢者サービス市場の供給量は特にめざましいものがある。また供給主体も社会福祉法人、NPO、株式会社等の営利法人与多くの参入が見受けられる。それに伴い介護サービス（事業所）の種類も多岐に渡るようになってきており、サービス毎の特徴やその市場性を分析する。</p> <p>また介護報酬改定の事業経営に及ぼす影響を把握するため、報酬改定により市場がどう変遷してきたを学んだ上で、現在の市場について理解を深める。</p>
講義の内容 (基本的枠組)	<p>①福祉事業経営の歴史 ②報酬改定と市場の変遷 ③福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 ④市場の分析手法 ⑤福祉事業の組織と経営 ⑥近年の市場トレンドと課題</p>
授業計画	<p>【第1回】 福祉事業経営の歴史 【第2回】 福祉事業経営の歴史 【第3回】 報酬改定と市場の変遷 【第4回】 報酬改定と市場の変遷 【第5回】 福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 【第6回】 福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 【第7回】 市場の分析手法 【第8回】 市場の分析手法 【第9回】 福祉事業の組織と経営 【第10回】 福祉事業の組織と経営 【第11回】 福祉事業の組織と経営 【第12回】 福祉事業の組織と経営 【第13回】 福祉事業の組織と経営 【第14回】 近年の市場トレンドと課題 【第15回】 近年の市場トレンドと課題</p>
受講生への要望	<p>市場は生き物です。講義だけでは市場を理解することはできません。普段より身の回りの出来事に感覚を研ぎ澄ましておき、興味を持つことが大切です。受け身にならず、授業への主体的な参加を期待します。</p>
評価の方法	<p>出席状況30%、授業内での発言20%、レポート50%。</p>
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 ・各回の授業テーマに基づいた教材を提供します。</p> <p>【参考書】 ・授業内で適宜指示します。</p>

授業科目

■ 社会調査特論

担当教員	白石 憲一
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計的考え方の理解。 ・ 統計分析の手法の習得。 ・ データから豊かで実りのある情報を引き出すための技法の習得。 ・ データ分析の進め方の習得。 ・ 統計ソフトの操作の習熟。 ・ 統計理論の習得。
講義の内容 (基本的枠組)	<p>本講座は、数量データの分析をするために、どのような知識や手法が必要となるかを説明する。具体的には、相関係数、カイ2乗検定、t検定、回帰分析の手法を中心に学習していく。授業ではパソコンとデータを用いて、実践形式で学習していく。最後に各自の関心に従って、受講生自らが研究計画を立て、数量データによる統計分析を行っていく。</p>
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション 【第2回】 統計分析の進め方 【第3回】 データの収集と編成 【第4回】 グラフ表現 【第5回】 統計ソフトの基本操作 【第6回】 データのばらつき 【第7回】 データの操作と比較 【第8回】 散布図と相関係数 【第9回】 データの品質 【第10回】 クロス集計表と仮説検定 【第11回】 平均値の差の検定 【第12回】 回帰分析（1） 【第13回】 回帰分析（2） 【第14回】 統計分析プロジェクト（1） 【第15回】 統計分析プロジェクト（2）</p>
受講生への要望	<p>修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。</p>
評価の方法	<p>出席状況 20%、学習態度 20%、試験等 60%。</p>
テキスト・参考書	<p>基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。</p>

授業科目

社会福祉経営研究・演習

担当教員	中熊 靖
開講期	1年次
単位	2 (必修)
学修目標	社会福祉経営特論と相俟って、社会福祉経営論の具体的内容を文献及び実例などにより明らかにし、履修者が社会福祉経営論の理論と実際を修得することを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会福祉の経営環境の変化とそれに対する福祉の諸制度の変遷について学習する。 ② マネジメントについて P.F.ドラッカーの理論を中心に学ぶ。 ③ 社会福祉事業をめぐる制度の今後のあり方・方向性について理解する。 ④ 社会福祉事業を担う各種法人の性格と公益法人制度改革について学習する。 ⑤ 履修する各人が関心を持つ事業について、その経営実態とあるべき姿を自らの研究によって探求する。
授業計画	<p>【第1回～第5回】 社会福祉事業の経営と運営をめぐる論点を整理し、その今日的意義を探る。参考文献を読んで各人が自分のとらえ方を発表し相互討議を行う。</p> <p>【第6回～第10回】 P.F.ドラッカーのマネジメントに関する著書を分担して読み、マネジメントの本質を理解する。</p> <p>【第11回～第15回】 高齢者福祉、身体障害者福祉、知的障害者福祉、精神障害者福祉、子ども家庭福祉等福祉の各分野の制度を整理し、それぞれの事業経営環境の変化を理解する。</p> <p>【第16回～第18回】 社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人や民間企業等社会福祉事業を担う各種法人の特性を理解する。特に、公益法人制度改革の意義について理解する。また今後重要な役割を果たすと考えられる地域住民によるボランティア活動の活性化策について考える。</p> <p>【第19回～第30回】 各人が選択する社会福祉事業について、その歴史と具体的事例の経営実態を調査し、あるべき姿を探求する。それぞれの研究の進捗状況に応じて中間報告と最終報告を行う。</p>
受講生への要望	指定の文献・資料について事前学習を期待したい。
評価の方法	出席状況 30%、演習での発表や学習態度 20%、学年末のレポート 50%を目途に評価する。
テキスト・参考書	<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「マネジメント」P.F.ドラッカー ダイアモンド社 ②「ゼミナール経営学入門」伊丹敬之、加護野忠男 日本経済新聞出版社

授業科目

福祉事業経営特論

担当教員	川島 良雄
開講期	1年次
単位	2
学修目標	従来型の社会福祉施設の経営論は、サービス提供に関する方法論が中心であった。ここから脱却し、福祉事業の経営管理全体を学ぶ必要がある。この授業では、組織の運営管理、リスクマネジメントを中心にしながら経営・管理運営の基本を学ぶ。
講義の内容 (基本的枠組)	1. 福祉事業経営の変遷 2. 福祉事業の事業主体 3. 事業組織の管理運営 4. 福祉事業経営とリスクマネジメント 5. 福祉事業経営の課題と将来
授業計画	【第1回】 福祉事業とは何か 【第2回】 福祉事業の変遷 【第3回】 福祉事業の事業主体とサービス提供組織 【第4回】 福祉事業主体としての法人 【第5回】 行政と福祉事業経営：許認可 【第6回】 行政と福祉事業経営：予算 【第7回】 経営戦略と事業計画 【第8回】 サービス提供組織と集団 【第9回】 福祉事業におけるリーダーシップとメンバーシップ 【第10回】 福祉サービスのマネジメントと質の評価 【第11回】 苦情対応とリスクマネジメント 【第12回】 人事管理と労務管理 【第13回】 会計管理と財務管理 【第14回】 情報管理と戦略的広報 【第15回】 福祉事業経営の課題と将来
受講生への要望	講義形式となるが、より理解を深めるために質疑や議論の展開を期待しています。積極的授業参加・発言をお願いします。
評価の方法	授業への積極的参加 20% 授業時の小レポート 30% レポート 50%
テキスト・参考書	【テキスト】 ・各回授業テーマに基づく教材を提供する。 ・パワーポイントを使用する予定。 【参考書】 ・『福祉サービスの組織と経営』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 ・『マネジメント』P.F.ドラッカー著 ダイアモンド社 ・『チームが機能するとはどういうことか』エイミー・C・エドモンドソン著 英治出版

授業科目

■ 人事労務管理特論

担当教員	森田 隆夫
開講期	1、2年次
単位	2（選択）
学修目標	現代社会福祉事業における労務管理の意義を理解するとともに、人事・労務法制、判例等を通じて具体的に思考すること。
講義の内容 (基本的枠組)	社会福祉事業の経営管理における人事・労務管理の意義と効用について概観するとともに、これに関わる法制度や理論を法令、通達、判例および事件を通して具体的実務的に研究する。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 我が国の社会福祉事業経営の変化と人事業務管理</p> <p>【第3回】 人事管理の基本的事項の概説</p> <p>【第4回】 労務管理の意義</p> <p>【第5回】 労務管理と労務法制</p> <p>【第6回】 労働契約法のあらましⅠ</p> <p>【第7回】 労働契約法のあらましⅡ</p> <p>【第8回】 労働契約法のあらましⅢ</p> <p>【第9回】 労働基準法のあらましⅠ</p> <p>【第10回】 労働基準法のあらましⅡ</p> <p>【第11回】 労働基準法のあらましⅢ</p> <p>【第12回】 労働組合法のあらまし</p> <p>【第13回】 労働関係調整法のあらまし</p> <p>【第14回】 労働関係判例の動向等Ⅰ</p> <p>【第15回】 労働関係判例の動向等Ⅱ</p>
受講生への要望	<p>予習、復習を行うこと。質問に答えてもらう場合もあるので、特に事前の学習を心掛けて頂きたい。</p> <p>学部で憲法、社会福祉法制等の授業を受けておくことが望ましい。</p>
評価の方法	提出課題の内容により判断する。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇山勝儀・小林理 編著「社会福祉事業経営論」光生館 2011年 ・ 「社会福祉六法」（最新のもの） <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義時にその都度説明する。

授業科目

福祉事業経営研究・演習

担当教員	川島 良雄	
開講期	1、2年次	
単位	2	
学修目標	福祉事業経営における経営と管理について学びを深め、福祉事業経営について主体的に考え行動する知識と技術の獲得を目指す。	
講義の内容 (基本的枠組)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉事業経営の変遷 2. 福祉事業の管理運営 3. サービスの評価と苦情対応 4. 福祉人材の確保と育成 5. 福祉事業経営の課題と将来 	
授業計画	<p>【第1回】 福祉事業経営研究の意味</p> <p>【第2回】 福祉事業の意義と経営構造</p> <p>【第3回】 社会福祉事業の歴史</p> <p>【第4回】 社会福祉事業の関連法制度</p> <p>【第5回】 社会福祉事業の経営と管理</p> <p>【第6回】 社会福祉事業の組織管理</p> <p>【第7回】 社会福祉サービスの人事管理</p> <p>【第8回】 社会福祉事業の労務管理</p> <p>【第9回】 社会福祉事業の財務・会計管理</p> <p>【第10回】 社会福祉事業のサービス管理</p> <p>【第11回】 社会福祉事業の情報管理</p> <p>【第12回】 社会福祉事業の危機・安全管理</p> <p>【第13回】 ステークホルダーマネジメント</p> <p>【第14回】 社会福祉事業経営～まとめ～</p> <p>【第15回】 最終レポートのテーマと研究方法</p>	<p>【第16回】 行政の役割～調査</p> <p>【第17回】 行政の役割～発表と討論</p> <p>【第18回】 事業経営の実態～調査①</p> <p>【第19回】 事業経営の実態～調査②</p> <p>【第20回】 事業経営の実態～発表と討論</p> <p>【第21回】 就労の実態～調査①</p> <p>【第22回】 就労の実態～調査②</p> <p>【第23回】 就労の実態～発表と討論</p> <p>【第24回】 退職と人材確保～調査①</p> <p>【第25回】 退職と人材確保～調査②</p> <p>【第26回】 退職と人材確保～発表と討論</p> <p>【第27回】 リスクマネジメント～調査①</p> <p>【第28回】 リスクマネジメント～調査②</p> <p>【第29回】 リスクマネジメント～発表と討論</p> <p>【第30回】 福祉事業経営～まとめ</p>
受講生への要望	演習科目であるため、積極的な準備と発言が重要です。	
評価の方法	演習への積極的参加 20% 中間レポート 30% 最終レポート 50%	
テキスト・参考書	<p>【テキスト】</p> <p>『社会福祉事業経営論』 宇山勝儀・小林理 光生館</p> <p>【参考書】</p> <p>『福祉事業経営特論』 西川克己 自由国民社</p> <p>『エイジレスマーケット』 デヴィット・B・ウルフ 中央法規</p> <p>『福祉を変える経営』 小倉昌男著 日経BP</p> <p>『行動分析学マネジメント』 舞田竜宣・杉山尚子 日本経済新聞社</p>	

授業科目

■ 地域福祉経営特論

担当教員	笹澤 武
開講期	1年次
単位	2
学修目標	地域包括ケアを理解し、さらに地域包括支援センター等における支援内容や支援方法を理解することを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	地域包括ケアや地域包括支援センターの支援について学習し、地域における支援の実際について学ぶ。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 地域包括ケアの仕組み・方法論</p> <p>【第3回】 地域包括ケアの事例研究</p> <p>【第4回】 地域包括支援センターの現状と課題</p> <p>【第5回】 地域包括支援センターの支援の事例研究</p> <p>【第6回】 他職種連携・関係機関のネットワークの現状と課題</p> <p>【第7回】 他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究</p> <p>【第8回】 他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究</p> <p>【第9回】 地域福祉の概念</p> <p>【第10回】 地域福祉と地域住民・地域コミュニティ</p> <p>【第11回】 地域福祉と市町村社会福祉協議会</p> <p>【第12回】 地域福祉と福祉サービス提供民間組織</p> <p>【第13回】 地域福祉と市町村行政、制度的協議機関</p> <p>【第14回】 地域福祉と民生委員・児童委員</p> <p>【第15回】 地域福祉の財源と共同募金</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価の方法	提出課題の内容（100%）により判断する。
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

授業科目

社会福祉行財政特論

担当教員	高井 健二
開講期	1年次
単位	2
学修目標	社会福祉の大きな流れと我が国の置かれている現状を理解したうえで、国や自治体の抱える社会福祉行政・財政の課題とそれに対する政策の在り方について、具体的な動きや事例を通して考察し、社会福祉行財政に対する自分なりの見方・考え方を身につける。
講義の内容 (基本的枠組)	中央法規出版発行の最新の「社会福祉の動向」(社会福祉の動向編集委員会)を基本テキストとして、社会福祉行財政を取り巻く今日的な課題を読み解いていく。また、自治体や施設の現場の状況を直接肌で感じるため、具体的な資料に当たるほか見学又はヒアリングの機会を設ける。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 社会福祉行財政概説(仕組みと運営・講義)</p> <p>【第3回】 テキスト第2章「社会福祉の基盤」(ゼミ形式)</p> <p>【第4回】 テキスト第4章「地域福祉」(〃)</p> <p>【第5回】 テキスト第3章「公的福祉」(〃)</p> <p>【第6回】 テキスト第5章「児童家庭福祉」(〃)</p> <p>【第7回】 〃</p> <p>【第8回】 テキスト第6章「障害者福祉」(〃)</p> <p>【第9回】 〃</p> <p>【第10回】 テキスト第7章「高齢者福祉」(〃)</p> <p>【第11回】 〃</p> <p>【第12回】 テキスト第1章「最近の動向と課題」(〃)</p> <p>【第13回】 社会福祉の現場視察(施設見学)</p> <p>【第14回】 〃</p> <p>【第15回】 まとめ(レポート発表)</p>
受講生への要望	テキストを良く読みこなして、不明な点、疑問点は事前に調べておくこと、受講生が交代でテキストの解説(自分なりの分析・課題認識を加えて)を行うものとする。発表は時間の関係上、特に関心を持った項目だけでも良いこと(レジュメ作成・受講生分用意)。発表の内容に対して他の受講生が質問したり、意見を述べ合うことで内容がより深みのあるものになる。
評価の方法	学習態度、レポート等で総合的に判断する。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 「社会福祉の動向(最新版)」中央法規出版</p> <p>【参考書】 「社会福祉行財政と福祉計画」中央法規出版 「社会福祉行政論(行政・財政・福祉計画)」ミネルヴァ書房 「国民の福祉と介護の動向(最新版)」厚生労働統計協会</p>

授業科目

■ 地域福祉計画特論

担当教員	川村 匡由
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	地域福祉経営としての計画の重要性を理解するまでを到達目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	地域福祉の理論と地域福祉計画の策定・実施・進行管理を実証的に学ぶ。
授業計画	<p>【第1回】 地域福祉の概念の整理</p> <p>【第2回】 地域福祉の動向と課題</p> <p>【第3回】 地域福祉計画の現状</p> <p>【第4回】 地域福祉計画の策定</p> <p>【第5回】 地域福祉計画の進行管理</p> <p>【第6回】 地域福祉計画の事例研究①</p> <p>【第7回】 地域福祉計画の事例研究②</p> <p>【第8回】 地域福祉計画の事例研究③</p> <p>【第9回】 地域福祉計画の事例研究④</p> <p>【第10回】 地域福祉計画の事例研究⑤</p> <p>【第11回】 地域福祉計画の事例研究⑥</p> <p>【第12回】 地域福祉計画の事例研究⑦</p> <p>【第13回】 地域福祉計画の事例研究⑧</p> <p>【第14回】 フリートーキング</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	各市町村や社協の地域福祉計画を入手し、比較研究する。
評価の方法	基準：プレゼン30点、出席状況20点、レポート50点。
テキスト・参考書	川村匡由・地域福祉とソーシャルガバナンス・中央法規

授業科目

地域福祉経営研究・演習

担当教員	笹澤 武
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	地域福祉の位置づけ及び地域福祉経営のための基本課題等について、講義、レポート、発表討議及び講評等を通じて学修し、地域福祉経営の視点と考え方を習得することを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	下記授業計画に記載される地域福祉経営に関する主要な基本課題について、導入講義として、大項目に関する講義、「基本講義」と、各論的な「テーマ講義」を随時配するとともに、履修生による「発表と討議」及び「レポート提出」により研究・演習を行う。
授業計画	<p>【第1回】 基本講義1「地域福祉への多角的アプローチ」 【第2回】 基本講義2「地域福祉の現状と今日的課題」 【第3回】 テーマ講義①「地域福祉の主要理論の系譜」 【第4回】 テーマ講義②「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」 【第5回】 ～【第8回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等 【第9回】 テーマ講義③「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」 【第10回】 テーマ講義④「社会福祉の機能、資源の地域配置」 【第11回】 ～【第14回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等 【第15回】 自由討議、中間のまとめ 【第16回】 基本講義3「地方分権と地域福祉行政」 【第17回】 基本講義4「地域福祉と社会福祉協議会」 【第18回】 テーマ講義⑤「地域福祉計画の系譜と課題」 【第19回】 テーマ講義⑥「民間組織による地域福祉推進の課題」 【第20回】 ～【第23回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等 【第24回】 テーマ講義⑦「コミュニティソーシャルワーク」 【第25回】 テーマ講義⑧「地域福祉ニーズ、その探求方法」 【第26回】 ～【第29回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等 【第30回】 自由討議、まとめ</p>
受講生への要望	基本講義及びテーマ講義及び示唆された文献・資料等でレポートを作成し発表するとともに、それに基づいて討議が行えるよう準備すること。
評価の方法	レポート提出（70％）・発表（30％）で総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 『新・社会福祉士養成講座第9巻地域福祉の理論と方法（第2版）』 （中央法規出版、2010年）</p> <p>【参考書】 日本地域福祉学会編『地域福祉事典』（2006年中央法規出版）。 岡村重夫著『地域福祉論』（光生館、1974年） 大橋謙策『地域福祉』（放送大学教育振興会、1999年） 三浦文夫『増補改訂社会福祉政策研究』（全国社会福祉協議会、1995年）。 『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告：地域における「新しい支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』 （全国社会福祉協議会、2008年）</p>

授業科目

■ ソーシャルワーク特論 I

担当教員	新木 恵一
開講期	1 年次
単位	2
学修目標	ソーシャルワークで用いられる専門的な援助理論と方法を学び、実際に福祉現場で具現化出来るようになること。理論モデルに基づく対象把握と実践が行えるようにさせる。
講義の内容 (基本的枠組)	個人・地域・組織の対象レベルにおいて、ソーシャルワークの実践モデルに基づいて、対象の統合的な理解・把握、アセスメントに関する力量の向上に資する講義と演習を行う。更に自身の実践の省察を行う。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション（講義）(①②該当) 講義の全体像について説明し相互理解による授業展開への理解を求める。</p> <p>【第2回】 治療モデル、環境モデル、生活モデル（講義・演習）(①②該当) 治療モデル、環境モデル、生活モデルについて講義し、各モデルの着眼点、考え方、介入の違いについて、事例の演習課題に基づいて討議する。</p> <p>【第3回】 ストレngthモデル（講義・演習）(①②該当) ストレngthモデルについて講義し、利用者の「強さ」に焦点化、アセスメントし問題解決の方法について、事例の演習課題に基づいて討議する。</p> <p>【第4回】 心理的アプローチ（講義・演習）(①②該当) 心理的アプローチについて講義し、演習課題に基づいて「心理社会的診断」と「暫定的目標の設定」の方法についてグループ討議による学習を行う。</p> <p>【第5回】 機能的アプローチ（講義・演習）(①②該当) 機能的アプローチについて講義し、演習問題に基づいてグループでクライアントの課題・ニーズや機関の機能を明確にし、ニーズとの関係で機関の機能を個別・具体化する。</p> <p>【第6回】 問題解決アプローチ（講義・演習）(①②該当) 問題解決アプローチについて講義し、事例の演習課題をグループで討議することにより相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する。</p> <p>【第7回】 危機介入アプローチ（講義・演習）(①②該当) 危機介入アプローチについて講義し、危機的状況への共感的理解とアセスメントについて、事例の課題に基づいてグループで学習する。</p> <p>【第8回】 行動変容アプローチ（講義・演習）(①②該当) 行動変容アプローチについて講義し、事例演習課題をグループで討議することにより、相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する。</p> <p>【第9回】 エンパワメントアプローチ（講義・演習）(①②該当) エンパワメントアプローチについて講義し、多次元でのアセスメントや多面的な支援、利用者自身がパワーを獲得していく過程を、演習課題に基づいてグループで学習する。</p> <p>【第10回】 組織におけるソーシャルワーク（講義）(①該当) 組織におけるソーシャルワークの意義と機能、援助の展開過程、ソーシャルワーカーの働きかけについて学ぶ。</p> <p>【第11回】 組織におけるソーシャルワークに関する演習（演習）(②該当) 事例の演習課題をグループで討議することにより、全体と個の理解、ソーシャルワーカーの働きかけについて学ぶ。</p> <p>【第12回】 チームアプローチ（講義・演習）(①②該当) チームアプローチについて講義し、事例の演習課題をグループで討議することにより、相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する。</p> <p>【第13回】 地域におけるソーシャルワーク（講義）(①該当) 地域におけるソーシャルワークの方法を講義する。</p> <p>【第14回】 地域におけるソーシャルワーク I（演習）(②該当) 複数の市町村の地域福祉計画を比較して、それぞれの違いについてグループで討議する。</p> <p>【第15回】 地域におけるソーシャルワーク II（演習）(②該当) 仮想的な課題を設定し、そのために必要な調査の手順や調査票、社会資源マップをグループで作成する。</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することを望む。
評価の方法	主体性を持ち新たな視点で積極的に授業に取り組んでいるかで50%評価。課題レポート内容で50%評価を基本とする。
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

授業科目

■ ソーシャルワーク特論Ⅱ

担当教員	真下 潔
開講期	1年次
単位	2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークについて学んだ理論等をスキルに結びつける。 2. 事例研究（児童福祉）を主にソーシャルワークの多様性を理解する。 3. ソーシャルワークの実践モデルを研究活動に活かす。 4. 他職種との連携と協働を理解する。
講義の内容 (基本的枠組)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの実践的モデルの分析と展開 2. ソーシャルワークの事例研究（児童福祉） 3. 家庭支援の実際（現代の家族の変容） 4. 多職種連携
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション・ジョイニング</p> <p>【第2回】 テーマの設定と設計</p> <p>【第3回】 多職種連携と協働</p> <p>【第4回】 事例研究</p> <p>【第5回】 相談者への対応</p> <p>【第6回】 事例研究</p> <p>【第7回】 ケースワークの仕組み</p> <p>【第8回】 事例研究</p> <p>【第9回】 相談者の環境の特性</p> <p>【第10回】 事例研究</p> <p>【第11回】 親と子を取り巻く社会の状況</p> <p>【第12回】 事例研究</p> <p>【第13回】 「家族」を考える</p> <p>【第14回】 事例研究</p> <p>【第15回】 授業の総括</p>
受講生への要望	<p>積極的な意見発言を望む。そのために、課題に沿った文献をリストアップし、読めるようにすること。</p>
評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点40% 2. レポート60%
テキスト・参考書	<p>テキストは特になし。講義のなかで補完していく。 これまでのテキストを活用したい。</p>

授業科目

■ ケアマネジメント特論

担当教員	黒澤 貞夫
開講期	1年次
単位	2
学修目標	わが国は、世界に例をみない超高齢社会を迎えている。そのなかで人は、幸せを求め、安心・安定の生活を願っている。ケアマネジメントは、そのための重要な役割、機能を有していることを学び身につける。
講義の内容 (基本的枠組)	人は老い、ときには病み、心身に障害を担って生きている。ケアマネジメントは、これらの人びとが幸せで、安心・安定した生活が営まれるよう、保健・医療・福祉サービスが適時・適切に提供されるよう調整し計画的に実践されることを目的としている。その展開方法を事例を通して、理論構成し、実践的能力を身につける。担当者は社会の信頼に応える資質と専門性を養うよう学習、研究する。
授業計画	<p>【第1回】 ケアマネジメントの現代社会における意義と役割について</p> <p>【第2回】 ケアマネジメントにおける利用者の尊厳の保持について</p> <p>【第3回】 ケアマネジメントにおける自立支援について</p> <p>【第4回】 ケアマネジメントにおける倫理について</p> <p>【第5回】 ケアマネジメントの展開過程について</p> <p>【第6回】 介護サービス計画の全体構造と思想的背景について</p> <p>【第7回】 相談における人間関係の形成について</p> <p>【第8回】 アセスメントの考え方と方法について</p> <p>【第9回】 生活課題（ニーズ）について</p> <p>【第10回】 目標と内容、モニタリング・評価について</p> <p>【第11回】 保健・医療・福祉等諸機関との連携・協働について</p> <p>【第12回】 医学モデル・生活（社会）モデルの特性と歴史的意義について</p> <p>【第13回】 ICF（国際生活機能分類）の理解と活用について</p> <p>【第14回】 ケアマネジャー（介護支援専門員）の専門性と資質の向上について</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、まとめていく心構えが重要です。授業の際の教材、文献をよく読んでおくことが有益です。
評価の方法	<p>①期末評価（レポート）</p> <p>②授業中の課題に対する取り組みの評価</p>
テキスト・参考書	<p>①予め用意した教材（プリント、文献等）を使用する。</p> <p>②参考書は必要に応じ提示する。</p>

授業科目

■ ソーシャルワーク研究・演習

担当教員	中越 信一
開講期	1、2年次
単位	2
学修目標	1) ソーシャルワーク特論で学んだことをさらに広く深く学ぶ。 2) ソーシャルワーク研究方法についてもさらに広く深く学ぶ。 3) 英語の論文が正確に読解出来るようにする。
講義の内容 (基本的枠組)	ソーシャルワーク特論、ソーシャルワーク研究方法で学ぶ内容をさらに深く理解するためにソーシャルワーク研究に関わる文献、各自の関心に応じた関係文献を読み吟味する。
授業計画	<p>【第1回】 受験生の研究テーマ・関心と研究報告の方法等について話し合う</p> <p>【第2回】 基本的文献と研究課題の論文の検索法</p> <p>【第3回】 研究の進め方と研究成果発表の仕方</p> <p>【第4回】 ソーシャルワーク研究の課題と方法</p> <p>【第5回】 事例研究法の学習①</p> <p>【第6回】 同上 ②</p> <p>【第7回】 受講生の研究課題の先行研究論文の報告と討議①</p> <p>【第8回】 同上 ②</p> <p>【第9回】 同上 ③</p> <p>【第10回】 同上 ④</p> <p>【第11回】 同上 ⑤</p> <p>【第12回】 同上 ⑥</p> <p>【第13回】 同上 ⑦</p> <p>【第14回】 同上 ⑧</p> <p>【第15回】 前期授業の総括</p> <p>【第16回】 Encyclopedia of Social Work ターナーの論文の分担翻訳・報告①</p> <p>【第17回】 同上 ②</p> <p>【第18回】 同上 ③</p> <p>【第19回】 受講生の研究課題の先行論文の報告と討論⑨</p> <p>【第20回】 同上 ⑩</p> <p>【第21回】 同上 ⑪</p> <p>【第22回】 同上 ⑫</p> <p>【第23回】 同上 ⑬</p> <p>【第24回】 同上 ⑭</p> <p>【第25回】 同上 ⑮</p> <p>【第26回】 同上 ⑯</p> <p>【第27回】 同上 ⑰</p> <p>【第28回】 同上 ⑱</p> <p>【第29回】 同上 ⑲</p> <p>【第30回】 後期授業の総括</p>
受講生への要望	この授業はゼミ形式で進めるので十分事前準備をして授業に出席すること。また、授業受講生への要望中の討議に積極的に参加すること。
評価の方法	①出席点50% ②レポート50%
テキスト・参考書	<p>テキスト：国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)ポリシーペーパー[国際方針文書] 日本ソーシャルワーカー協会分担執筆 2011年1月 (日英両文)</p> <p>参考文献：田垣正晋著「これからはじめる医療・福祉の質的研究入門」 中央法規出版 2008年 上記書を使用する。</p> <p>その他読むべき文献は開講時に提示する。また各自が報告する論文等は必要に応じて用意する。</p>

修士論文研究指導の概要

鈴木 利定	<p>我々の人生にとって大切な道德生活の基礎というべき意味において倫理道德の理論的実践両面について研究する。福祉倫理特論研究は、福祉倫理がどのようにして始まったか、現代を経て、将来は如何にあるべきか、その姿を研究し論証してゆく。即ち、人の道とした福祉倫理の原点より始めて、現代及び将来への持続を研究するものである。</p> <p>今日はまさに多文化の時代である。その観点を踏まえて、福祉に携わる指導者共通の福祉観とは何かについて研究してゆくものである。高潔な人格の養成は加齢により益々その輝きを増してゆく。その人格達成法について研究する。我が国上代の社会的秩序より生じた倫理より今日及び将来に至るまでの福祉倫理の特性についての研究を行う。</p>
江島 正子	<p>世界の各国と同様、現在、わが国においても社会は大きく変動しています。幼いこどもの一番大切な家庭生活も、保育や教育の現場も、又こどもの福祉の現場においても同じです。</p> <p>幼児教育の視点に立って、こどもの成長と発達のため何を解決しなければならないかを考え、いかにわれわれはその問題を解決できるかについて考察を加え、こどもに内在する「いのち」をもっとも尊重する援助のあり方を研究します。</p> <p>研究事例として以下のようなテーマが挙げられるでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) こどもの家庭生活と福祉について(2) 環境としての植物・園芸との関わり方について(3) 保護者と園との総合的考察について(4) 保育者をめぐる現代的課題について(5) ソーシャルアクションの試みとしての支援について 等々

<p>笹澤 武</p>	<p>2000年に成立した社会福祉法は、これまでの国や行政を中心とした、いわゆる福祉サービス供給サイドからの措置行政であったものを、利用者サイドからの福祉サービス体系に転換することを目的とするものであった。特に、この中の第4条（地域福祉の推進）と第107条（市町村地域福祉計画）は、地方分権一括法の施行に関連して、地域住民が抱えている様々な生活問題や複雑化・高度化する福祉ニーズに対して、適切な利用促進等の「身近な福祉」を目的としたものである。研究指導では、地域福祉活動に対して積極的な住民参加を促進したり、都道府県や市区町村の福祉に関するユニークな事例を実態調査し分析して多面的・多角的側面から地域包括ケアを中心に研究する。院生は常に問題意識を持って論文作成に臨んでもらいたい。</p> <p>修士論文は修士1年4月から論文の書き方も踏まえて、個人指導を計画的に実施する。</p>
<p>大野 俊和</p>	<p>修士1年4月から毎週、週1回90分程度の院ゼミミーティングに参加できることを条件とする。</p> <p>その際、他の大学院生による進捗報告と研究報告があるがすべてに出席すること。</p> <p>4月の面談を通じて、教員との話し合いの中で論文テーマを決定する。希望者の関心領域が心理学や社会学に近く、定量データを用いた実証的研究に関するものであることが望ましい。各自にアサインされた課題の発表と関連論文の発表を行っていくことになる。なお、修士1年から修士論文発表会での発表と修士1年3月の段階でのミニ修士論文の提出を義務とする。</p>
<p>白石 憲一</p>	<p>各自の関心や問題意識に基づき研究テーマを設定し、数量データに基づき、統計的手法を用いて仮説検証や政策提言に結びつくように指導を行っていく。研究テーマの決定、研究計画の策定、データの収集、データ分析、分析結果の検討、結論の導出、論文の執筆という修士論文作成の一連の流れの中で、個人指導を中心に計画的にサポートしていく。院生は主体的に研究に取り組んでいくことを期待する。修士論文の作成を目的として、研究報告に基づくディスカッションを積極的に行っていく。</p>

